

2018 年研究発表において宮崎、安藤、中井で口頭発表した内容を纏めました。

○判断基準に迷った設問

題名：「パーソナルカラー簡易診断の現状調査から見えるもの」

2013 年頃からインターネット診断、雑誌における簡易診断が多く見られるようになり、誰もが気軽に診断できるようになりました。

一方で「簡易診断は難しい」「よくわからなかった」という声も多く、なかには定期的に簡易診断を受け毎回シーズンが異なるという声も聞こえました。

そこで簡易診断に欠かせない「セルフチェック」の難しさを調査することで、パーソナルカラー簡易診断の現状について考察してみました。

調査方法はインターネット、雑誌からランダムに 17 の簡易診断を選び、そこで問われている設問を全て抽出し、使用頻度の多い設問上位 12 項目を採用し、簡易診断を作成しました。

◆アンケート対象方法

男女： 10 代～60 代（内訳、男性 12 名、女性 96 名）

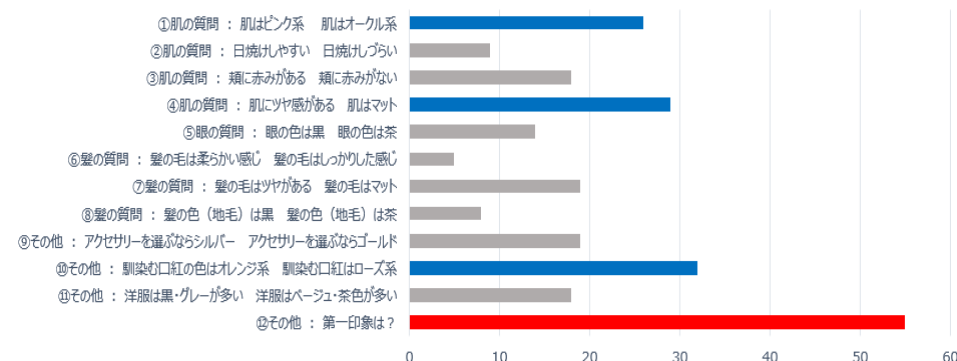
回答者： 108 名

調査期間： 2018 年 9 月 24 日～9 月 30 日

SNS を通してランダムに依頼

◆アンケート集計から見えてきたこと

アンケート集計から見えてきた簡易診断の現状を一部ではありますがご紹介いたします。



○判断基準に迷った理由

1	肌：色	16	色の基準がわからない。色白はどちらに入るかわからない。年齢によって変わる。
2	肌：日焼け	6	日焼けしない。どの状態の日焼けかわからない。判断しづらい。
3	肌：赤み	5	赤みの基準がわからない。季節によって変わる。
4	肌：質感	15	ツヤの基準がわからない。体調によって変わる。部位によって違う。年齢によって変わる。スキンケアによって変わる。
5	眼の質問	9	どちらにも見える。よくわからない。気にしたことがない。
6～8	髪の質問	6	染めているので判断に迷う。どちらかわからない。日による。室内と屋外で変わる。
9	アクセサリー	12	両方好き。考えたことがない。判断できない。選択が変わる。
10	口紅・シャツの色	20	両方使っている。片方しか使ったことがないから比較できない。つけたことがない。メイクによる。色がわからない。馴染んでいるのかわからない。中間が似合う。
11	洋服の色	12	両方持っている。両方持っていない。わからない。
12	第一印象	28	客観視できない。人から言われたことがない。TPOで印象が変わる。第一印象のワードが無い。

簡易診断での核となる設問は「肌、髪、眼など」の色素を被験者がセルフチェックすることがわかります。

色素チェックの判断基準が判らない為、セルフチェックの難しさを被験者も感じているように思います。

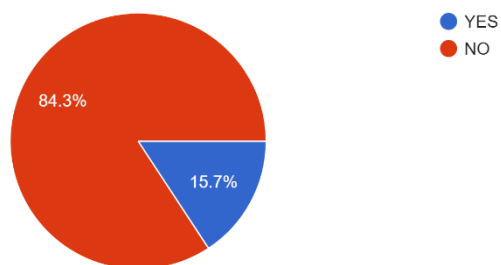
色素以外の設問としては、「選ぶアクセサリーの色について」「馴染む口紅の色について」「洋服の定番カラーについて」「第一印象について」「第一印象について」が多いようです。

◆最後の質問

もう1つ、診断には関係のない、しかし最も重要なことを質問してみました。

「あなたは手鏡を持ってセルフチェックをしましたか？」

84 パーセントの方が手鏡を持たずに診断に臨んでいるという、驚くべき結果が出ました。



この質問を入れた理由は、

どの簡易診断にも注意事項として手鏡を用意することを入れていないことでした。

このことから客観的に診断できていないことが判ると思います。

◆現状からみえたこと

本来、パーソナルカラー診断は人の持つ色素と色の調和を測っています。

その結果「似合う」「似合わない」の判断がつきその人の印象を左右します。

クライアントは似合う色を求めて診断に来ますが、簡易診断ではその似合う色に関わることを設問に採用しているケースが非常に多いことが判りました。

例えば「馴染む口紅の色」についての問いは「似合う色（調和）」の先の色選びであり、また「第一印象について」の問いも客観的に判断することが最も難しいように思います。

パーソナルカラーリストが色素から導かれる似合う色によって印象をコントロールできるようコーディネート提案まで担うことを、先に問うてしまうのも印象深かったです。

情報が氾濫し、取舍選択を求められている現状において、クライアントは色々なところから色々な情報を得て、簡易診断を行っています。

そこには時代も反映されているでしょう。そんな中で行われるセルフチェックは、判断が難しいと思われる。

今回の現状調査から、パーソナルカラーリストには色素を客観的に判断する力がより強く求められていくのではないのでしょうか。

そして今後ますますパーソナルカラー診断を発展させていくには、簡易診断で終わらず、色素を客観的に判断する力があり、色彩理論と感性を持ったパーソナルカラーリストによる診断が求められていくことが望まれます。（中井）